

帰国生のための学校説明会・  
相談会を国内三都市で開催  
（海外子女教育振興財団）

海外子女教育振興財団は七月、学校説明会・相談会を大阪（二十五日、大阪市・大阪府立国際会議場グランキューブ大阪）、名古屋（二十六日、名古屋市・愛知県産業労働センターウインクあいち）、東京（七月三十日、台東区・東京都立産業貿易センター台東館）でそれぞれ開催した。

会の目的は、海外から帰国した、または帰国予定の子どもとその家族が帰国生受け入れ校や教育委員会の担当者へ直接質問・相談できる場を提供するとともに、受け入れ校と教育委員会に広報の場を提供すること。

当日は小学校から大学までの帰国生受け入れ校と教育委員会、海外子女や帰国子女を支える保護者の団体および特別支援教育に詳しい研究所が「個別相談ブース」を設けて来場者の相談に応じたほか、「資料コーナー」を設置して学校案内・入試要項など受け入れ校の

資料や海外・帰国子女教育に関連したリーフレットを配布した。

本財団からは教育相談員が教育全般に関する個別相談を実施、外国語保持教室も個別にブースを設けて相談を受けたほか、すべての会場で本財団の教育相談員が「帰国後の学校選択」に関して、各会場の地域性に沿った講話を行った。また帰国生によるパネルディスカッションも開催され、それぞれ海外にいたころや帰国当時から振り返り、学校を選んだ理由や受験勉強、入学してからの学校生活等について語った。

さらに東京と名古屋においては、英語教育の専門家による「広がる、英語検定・資格活用」と題した講演も行われた。加えて東京では、文部科学省によるIB教育制度に関する説明や海外で活躍する社会人による講話、また帰国生受け入れ校が自校の特色をアピールする「二分間プレゼンテーション」や本財団の外国語保持教室による体験授業も実施された。

体験授業に参加した小学生は「お話を読んで質問に答えるゲーム感覚の授業ですごく楽しかった。全員に答えさせようと先生が工夫を感じた」と話し、中学生は

「いまは日本語の方が心配な状態だけど、周りもみんなが帰国生というのは変な気遣いがいらなくていいですね」と苦笑した。

終了後、来場者からは「たくさん学校が来ていて、どの学校も親身に相談に乗ってくれて希望を感じた。とにかく、子どもに合う学校を選びたい」、「パネルディスカッションでの経験談やアドバイ스가参考になった。いままでピンとこなかった受験が目前に来た感じ。相談ブースでどんな勉強をすればいいのかも教えてもらえたのがありがたい」といった声のほか、「海外にいる孫のために資料をもらいに来た」と大きなカートを引く老夫婦の姿も見られた。

また、参加した帰国生受け入れ校からは「帰国生や海外生と直接話ができるのは素晴らしい機会。年々、皆さんの生活や学習環境が多様化しているのを感じて、受け入れる体制をどのようにしていけばいいのか考えさせられる」、「今回、ブースに来られたかたがたに学校の雰囲気や子どもたちの様子を見てもらいたい」等の感想が寄せられた。

なお、会の詳細は本財団のホームページに掲載されている。

<https://www.joes.or.jp/kokunai-setsumekai/>

海外人事担当者セミナー  
を京都で開催  
（海外子女教育振興財団）

海外子女教育振興財団は七月四日に京都市では初めて、本財団の維持会員企業・団体の海外人事担当者等を対象に「当社の海外子女教育手当て・補助について」をテーマとしたセミナーを開催した。

事例発表を行ったのは、株式会社GSユアサ人事部長グループの高田篤志氏と宮森雅美氏、ヤマールホールディングス株式会社人事部企画グループの中井悠子氏、パナソニック株式会社の人事労政部の都倉明子氏。

本会は海外駐在員の派遣業務を行っている海外人事担当者、海外での子ども教育等への支援について理解を深めていただくことが目的で、五十二社から六十四人の参加があった。

まず海外子女教育振興財団の村雅治理事長があいさつに立ち、本会への参加および日ごろの支援に感謝するとともに、多様化して

いる海外子女の現状を十五年前のデータと比較しながら示した。

続いて、前述の三社がそれぞれ事例発表を行い、会社および海外事業展開の概要のほか、駐在員の子女に対してどのような方針で教育手当てや補助を行っているか等課題を含め、具体的に説明した。

海外駐在員に寄り添いつつ、会社の財政や平等性に配慮し、時代に即した判断をしなければならぬ人事担当者の苦勞も垣間見られ、発表内容に共感して何度もうなずく参加者の姿が見られた。

質疑応答では「日本人学校がある地域でインターナショナルスクールを選択した場合の負担はどのようにしているのか」、「高校生を帯同する場合、どのような支援をしているか」、「母親が子どもを連れて赴任する場合の対応は?」、「渡航前研修についてはどこまで支援しているのか」、「日本の幼児教育無償化に対応した支援について、どのように考えているのか」等、子どもの教育補助に関するものほか、赴任者やその家族の健康面や海外医療費にかかわるものまで、絶え間なく挙手があり、少しでも多くの情報や意見を得ようとする参加者たちの真摯な姿勢が

見受けられた。

セミナーが終了したあとの懇談会では、参加者同士で名刺を交換したり、談笑したりしながら情報を交換する姿が多くあり、「三社とも、具体的にわかりやすく、たいへん貴重な内容だった。我が社は海外展開の歴史が浅く課題もたくさんあるが、できることから解決していこうと思う」、「会社は違っても、同じ立場の人たちと知り合えたことも大きな収穫だった。これからは情報交換をしながらアイデアを絞っていきたい」等の感想が聞かれた。

### 帰国子女教育を考える会 第八十二回研究会を開催

六月二十二日、YMCA学院高等学校(大阪市天王寺区)で、「帰国子女受入校の実際を聞く」をテーマに研究会を開催し、関西学院中学校・高等部、大阪薫英女学院中学校・高等学校、京都外大西高等学校の三校が発題した。

同会はおもに関西圏で帰国生を支援する教育関係者や保護者の会等が一九九〇年に設立した研究会で、毎回異なるテーマで年間三回の例会を開いている。

はじめに、一九八一年に帰国生の受け入れを始めた関西学院高等部の田澤秀信副部長が演台に立った。多くの卒業生が系列の大学に進学するため、受験指導が不要という特性に触れつつ「本校では、落ち着いた環境で『凡ての人の僕たれ』という聖書(すゑ)のことは大切に世界で活躍する生徒の育成を目指している」と紹介した。さらに、文部科学省より「WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業」の拠点校に指定され、世界の諸問題を扱ったり、体験型学習を行ったりするなかで「実践的課題解決能力を備えた人間力育成に力を入れている」と語った。

次に、一九九一年に留学制度を始めた大阪薫英女学院の西村正弘教頭が「本校は人を敬い・信じ・愛し、たくましく生きる女性の育成を目指し、一九三一年に設立。英語教育を中心とした国際教育に力を入れるとともに、人とのつながりを重んじ『一人で勉強しない』を合い言葉として話した。

延べ四一〇〇人超を送り出している留学プログラムは、約三十の姉妹校と日本人女性の現地アドバイザーサポートおよび一人一家庭のホストファミリー体制を持つとい

い、生徒たちがこの留学プログラムを念頭に、英検をはじめと具体的な目標を立てて同級生と共に努力する姿は喜ばしいと述べた。

最後に、一九九五年に帰国生の受け入れを開始した京都外大西高等学校の早藤充企画部長が朝のホームルームでの確認テストに始まる「学校生活の一日」を紹介しながら同校の特性について説明した。

「授業アンケート」等を活用し、生徒の学力伸長をはかるさまざまな方策を行っていることや、ユネスコスクールや模擬国連をはじめ、留学制度も整備していることを紹介し、「国際感覚育成に力を入れる一方、自由を基調にけじめと規律を生徒に求める校風は建学以来の『一人ひとりの個性と志望を最も大切に』学校創設者の精神を具現したもの」と述べた。

参会者からは「各学校の特色ある取り組みがわかり、学校選択の確かな情報を得られた」増加している外国人の子どもたちへの対応も「等の感想が上がった。

### 第七十回グローバル化社会 の教育研究会開催

七月八日、七十回目となる「グ

ローバル化社会の教育研究会」が聖学院中学高等学校(東京都北区)で開かれ、教育関係者を中心に約二十人の参加があった。「A」とグローバル化の時代に必要とされるコンピテンシーとは？」をテーマに、元文部科学副大臣・前文部科学大臣補佐官で、現在、慶應義塾大学政策メディアア研究所・総合政策学部および東京大学公共政策大学院の教授を務める鈴木寛氏が話題提供を行った。

鈴木氏は日本でアクティブラーニングの導入をいち早く推進し、高大連携の立て役者との呼び声も高い。二〇二〇年度から始まる学習指導要領の改訂や大学入学制度改革のほか、学習の機会均等などにも尽力している。

近年、「A I化により仕事内容が大きく変わる」といわれる。また外国人労働者の増加など、国内のグローバル化が急速に進んでいる。そのような時代を生きる子どもたちに向けて鈴木氏は、「ゆとり教育を廃止したり小学校から英語教育をとり入れたりと、さまざまな教育改革が進められてきた」と説明したうえで、最近のPISAや国立青少年教育振興機構の調査結果を紹介した。

日本の十五歳の学力は世界的にトップレベルに返り咲き、読書習慣も定着してきているが、その一方で「学び続ける意欲」や「世界への貢献意欲」は最低レベルの結果だったという。さらに日本の高校生はアメリカ・中国・韓国に比べて「自己肯定感」の低さが目立つと問題視した。

今後、日本人に求められる能力について「『A Iでは解けない難問と向き合い続ける力』『多文化・多様性への対応力』とし、想定外や板挟みになっていく問題に対し、乗り越え、幸せを仲間と共に創造していく意欲が大切」と述べた。

さらに、そういった教育の推進には、「将来、自分もこうなりたい」と思えるようなロールモデルを見せることが必要で、保護者や地域の応援があるかどうかが大きなカギになると力を込めた。

会場からは「PISAの調査はデータ段階でバイアスがかかっていないか」、「学ぶ意欲は国の豊さに関係するのではないか」、「アクティブラーニング等は教員の負担が大きく、その技量が成果に大きく響く」等の声が上がリ、その一つ一つに鈴木氏が丁寧に答え、参加者の議論が深まった。

## お知らせ

### 2019年度後期用教科書送付

文部科学省では、海外子女教育の推進をはかるため、外務省の協力を得て、海外在住の義務教育年齢の日本人子女が使用する教科書の無償給与を行っている。

2019年度後期用教科書は、7月上旬から発送作業が行われ、今後、在外公館を通じて対象者に無償給与されることとなる。今回発送されるのは分冊となっている下巻で、総計17万6438冊。

なお、これから1年以上の在留予定で海外へ出国するお子さんは、海外子女教育振興財団を通して教科書の無償給与を受けることになる。必要書類等、詳細は財団のホームページに掲載されている。

問い合わせ先

海外子女教育振興財団

情報サービスチーム

URL <https://www.joes.or.jp/>

kokasho/

### 2020年度大学入試センター試験実施概要

試験実施概要

出願期間 2019年9月30日

10月10日(消印有効)

試験実施日 20年1月18日・19日

追試験実施日 20年1月25日・26日

出願書類の入手方法

日本国内に居住する親族等を経由して「受験案内」を入手する。

出願書類の提出方法

日本国内に居住する親族等を経由して提出。親族等がない場合は、大学入試センターに連絡

のうえ、速達航空郵便で直接大学入試センター宛てに提出する。

問い合わせ先

(独)大学入試センター事業部

事業第一課

URL <https://www.dnc.ac.jp>

『母親が歩いて見た 帰国生のための学校案内2020(首都圏版) 中学・高校編』(フレックス 帰国生母の会)

おもな内容

○帰国生受け入れ校情報

約320校の小・中・中等教育・高等・高等専門学校の帰国生入試要項や編入情報など。

○訪問記と訪問レポート

国・公・私立校を約130校掲載。先生や帰国生の声も紹介。

○参考資料

中学・高校受験体験記、寮のあ  
る国内の中学・高校一覧、外国  
にある日本の私立校一覧など。

体裁 A4判・約500ページ  
定価 3400円(税別)

発行予定 9月14日

申し込み・問い合わせ先

フレンズ 帰国生母の会

URL <http://www.ne.jp/asahi/friends/kikoku/>

『帰国生への学校案内《関西》2020』(関西帰国生親の会 かけはし)

おもな内容

○取材によるレポート

関西圏の小・中・高、約60校と  
府県教育委員会について。先生  
や帰国生、保護者の声も紹介。

○特集記事

かけはしセミナー「バイリンガ  
ルの言語と認知の発達―母語と  
第二言語の関連性について―」  
特別レポート「帰国生の今後の  
目標」、直撃アンケート「あな  
たはバイリンガル?」

○各種情報

学校基礎知識～出国から帰国ま  
で、日本の学校への入学・編  
入学、大学入試解説、外国語保  
持教室・塾・予備校情報など。

体裁 A4判 約350ページ  
価格 2900円(送料別)

発行予定 10月3日

申し込み・問い合わせ先

関西帰国生親の会 かけはし

URL <http://www.ne.jp/asahi/kakehashi/kikoku/>

第11回子どもノンフィクション文  
学賞(北九州市)

募集内容 ノンフィクション(ル  
ポルターージュ・旅行記・伝記・ド  
キュメントなど、自分のことばで  
表現すること)。

対象 小学生・中学生

応募期間 2019年9月1日～  
11月30日(必着)

賞 各部に、大賞、佳作、選考委  
員特別賞、学校団体賞。

結果発表 2020年3月上旬

詳細・問い合わせ先

北九州市立文学館「子どもノン  
フィクション文学賞」係

URL <http://www.kitakyushu-city-bungakukan.jp>

新規ご入会維持会員

- ・コナミグループ
- ・横浜中学校・高等学校
- ・関西大倉中学校・高等学校

海外子女教育関係人事

◆就任挨拶◆

(外務省領事局長)



水嶋 光一

本年七月五日、外務省領事局長に  
就任いたしました、水嶋でございます。  
着任にあたりご挨拶を申し上げます。

外務省領事局は、在外公館と一丸  
になって在外邦人の安全確保、旅券  
発給等の各種領事サービスに取り組  
んでいます。中でも、海外に在住す  
る子女の教育についてはその重要性  
に鑑み、積極的に支援を行っていま  
す。

近年、世界中で科学、スポーツ、  
文化などあらゆる分野で日本人が活  
躍しています。その中には海外で生  
活し、教育をうけた方も少なくあり  
ません。在外教育施設は、これから  
国際社会で活躍する子供たちの成長  
を見守り、基礎づくりの役割を果た  
す重要な場所です。関係者の皆様と

ともにできる限りの応援をしていき  
たいと考えております。

また、全ての子供たち、そのご家  
族の皆様が海外で、不安なく安全に  
過ごせるよう、領事サービス充実へ  
の高まる期待に応えるべく、引き続  
き努めて参ります。

どうぞよろしくお願いたします。

(略歴)

昭和六十年外務省入省、北米局北  
米第二課長、大臣官房報道課長、在  
ジュネーブ国際機関日本政府代表部  
公使、大臣官房会計課長、大臣官房  
審議官(報道・広報・文化交流担  
当)、大臣官房・総合外交政策局・  
領事局審議官、在大韓民国日本国大  
使館特命全権公使などを経て現職。



◆就任挨拶◆

〈文部科学省総合教育政策局長〉



浅田 和伸

一九九七年から三年間、北京の日

本国外使館に勤務し、本来の所掌は違いましたが、在外教育施設も当然自分の仕事として担当しました。

この間に天津が補習授業校から日本人学校になりました。事務的には大変でしたが、関係者の期待を背負っている充実感がありました。補習授業校時代も含め毎月車で天津へ行き、革靴、背広で運動会にも出ました(初代日本人学校校長の仲野校長(大阪)に百メートル走で負けました)。

去年の夏、民辻校長(埼玉)をはじめ当時の北京日本人学校派遣教員や奥様方が集まる会にお声掛けいただき、文字通り時を忘れて楽しく旧交を温めました。

外国に限らず、全ての出会いは

「二期一会」だと思います。私の場合、

それまで中国語は見たことも聞いたこともありませんでしたが、中国での三年間で世界が大きく広がりました。日本大好きな中国人の友人も大勢できました。平和を支えるのはそういう個人の細い糸の積み重ねだと信じています。

今回縁あってこの局に来させていただきました。お愛想の下手な不器用な人間ですが、どうかよろしくお願い申し上げます。

〈略歴〉

香川県豊島出身。昭和六十(一九八五)年文部省入省。内閣審議官・教育再生実行会議担当室長、文部科学省大臣官房審議官(初等中等教育)局担当、高等教育局担当)等を経て現職。平成二十一(二〇〇九)年度から三年間、自ら希望し公立中学校長。著書に『教育は現場が命だ―文科省出身の中学校長日誌』(悠光堂)。

◆就任挨拶◆

〈文部科学省総合教育政策局 教育改革・国際課長〉



北山 浩士

七月二日付けで教育改革・国際課長を拝命しました北山です。よろしくお願いいたします。自分にとつての海外子女教育との接点は、平成七年四月から三ヶ月間、当時の文部省

教育助成局海外子女教育課に在籍した時と、平成十七年から四年間、在フランス日本大使館で勤務した時の二度ありました。パリ勤務の際は、パリ日本人学校の理事に任命され、理事会や運動会、卒業式、入学式に出席させていただいたほか、欧州地区の校長研修会をお迎えしました。また、各地の補習授業校を訪問する機会も得ました。印象的だったのは、日本人学校の授業が大変落ち着いた雰囲気の中で行われていたことと、補習授業校の生徒さんの多くが国際結婚家庭のお子さんや両親ともにフ

ランス人家庭のお子さんだったことです。令和の時代の日本人学校や補習授業校の現状を改めて見詰め直し、海外で学ぶ子供たちをサポートする取り組みを進めていきたいと思っています。日本人学校、補習授業校で日々の課題に直面されている先生方のお役に立てるよう、いろいろな声をお伺いしたいです。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

〈略歴〉

平成五(一九九三)年文部省(現文部科学省)入省。熊本県社会教育部長、在フランス日本大使館一等書記官、文化庁国際文化交流室長、厚生労働省保育課幼保連携推進室長、文化庁世界文化遺産室長、高等教育局専門教育課長、文化庁国際課長、ユネスコ日本政府代表部参事官等を経て現職。